

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

②

未知のことへの出合いは、期待と興味をかき立ててはいたが、生まれて初めて見る熊にびくつき。仲間が「ほこら」を探しているところだ。黒岩の象徴である巨岩が折れ重なるように幾十にも堆積している。岩と岩との間に深い空間がある。地の底が口を開けているかのようだ。深いところでは三枚は優にある。足を踏み外すことに感じたのかも知れない。大げなをすること間違いない。休憩をし、頂上を目指し

二〇〇四年、五葉山自然倶楽部で黒岩にあったという、その「ほこら」を探したことになった。木々の新緑がまばゆい五月十六日。仲間とともに大船渡市日頃市町石橋の六郎峠から五葉山の黒岩を目指して登った。五葉山麓は、動物の棲

み家であることは分かっていた。その時、怖さはなかった。後から聞いたことだが、実はこの熊との間隔は十五〜三十メートルあったということだった。やはり緊張からか、近くに感じたのかも知れない。大げなをすること間違いない。休憩をし、頂上を目指し

「ほこら探し」の旅

住田町世田米 村上 敏弘

い。熊の方が私たちより賢く自然界のルールに従い、私たちを護ってくれたのではないかと思っ

た。熊との遭遇に気が高ぶっている。周囲に注意しながら木々の中を登っていく。檜山の登山入り口からの黒岩コースである

登山道に出た。眼前に、なく霧が出てきた。霧は

【執筆プロファイル】
住田町世田米在住。五十三歳。五葉山自然倶楽部の事務局として活動を支える。フットワークの良さ、物腰の柔らかさに親近感。人生の応援歌「一生勉強一生青春」(相田みつを)を、種々の活動への取り組みを通して表現している。

時として自分自身の位置を見失わせてしまう。岩を登ることを止め、じっと霧が晴れるのを待つ。いつしか私は登山道傍のハイ松の中にいた。仲間は深い茂みや巨岩に阻まれ、かつてあったという「ほこら」を探し当てることはできなかった。先人たちが黒岩を通り、「ほこら」を拝み、

休憩をし、頂上を目指し

あろう、五葉山の魅力は今も変わらない。

「ほこら探し」は過去から現在を捉え、明日を見出す旅でもある。それは同時に自分自身の人生を顧み、明日を見つめる生き方にも似ている。「ほこら探し」は、これからの旅でもあり、

を忘れ、早くこの巨岩の堆積地帯を登り切りたいという衝動に駆られた。それほどまでにすごい岩の連続であった。やがて、どこからともなく霧が出てきた。霧は



大小の岩が幾重にも存在する黒岩。眺望は格別。岩の隙間は深いところで数枚も(シャクナゲ観賞会、黒岩でひと休み)

五葉山麓は、動物の棲